



花野ゆく心

秋田県生涯学習センター 所長 鈴木 修一

十一月十三日、秋田県生涯学習センターで、「生涯学習推進五〇周年」を記念する生涯学習・社会学習研究大会が催された。所長室に、代々読み継がれた原点とも言えるべき本があり、私も新たな付箋を一枚加えた。

この社会をよくしていくのは「心の豊かな」人々だと思う。心の豊かな人とは、人生への充実感を持った人ではなからうかと、私は思う。本当に満足できる何かを求めている人の心は豊かである。

『秋田の生涯教育』小畑勇二郎著

「豊かさへの旅」と題するセンターの広報に、自作詩が掲載されたのが平成の初めのころ、当時「豊かさ」「豊かな心」のフレーズを目にすることが多かったと改めて気づく。それは綿々と受け継がれ、今も「豊かな人間性を育む学校教育」という県の学校教育の目標に息づいている。「生涯学習」という求めてやまない知と情の旅を、小畑氏は句に託す。

行けど行けど果ても見えぬ花野かな

花野行く耳にきのふの峡の聲

響き合う郷土の先人石井露月の「花野」の句と並べて示す。「秋草の乱れ咲く野を歩いて」と、昨日訪ねた溪谷で聞こえた妙なる音色が蘇り、耳の底に響いている。「行けど行けど」の果て知れぬ豊かさとして、「花野行く」の时空の重層感という厚みのある豊かさ。これらの句に、現代の人々が忘れかけた真の「心の豊かさ」を思うのである。私たちはいま、憧れて何かを求める熱情を失いかけたまま、見映えの良い既成の豊富な選択肢を結び続けるようにして、少々雑に自分の人生を紡いではいないか。還暦を迎え、「故きを温ねて新しきを知る」という成句の力に肯く自分がある。露月句をもじり、「花野行く耳に生涯学習先人の声」などと嘯きながら、これまでに聞いた歌や、読んだ本との出会いが、今の創作活動に生きていることを確かめ、ひそかな喜びを覚えている。

童女のようなシルエットは

私に遅れて貝殻を拾う妻

さくら貝は見つかっただろうか

妻に見せようと拾った一枚は

指さきで儚く割れて……

貝殻溜まりには

二枚貝の生前の天敵もいる

硬質の蝸牛かたつむりのようなつめた貝

殻の先っぽに

穴が開いているのは

つめた貝の餌食になった証拠

痛々しいから一緒にしない

娘らと共に過ごした昔のように

どこに飾るといふあてもなしに

持ち帰るつもり

色とりどりの貝殻

一つ見つけた口を閉じた小さな貝

内に秘めた艶やかな命の光と

持ち重りする感覚を掌に包み……

追いついた妻に見せて波へと返す

自作詩「秋色の渚」の一節

この作品には様々な出会いの連鎖が働いている。書く前に意識していることや書きながら思い出すこと、書いた後で気づくことなど。「浜辺の歌」を口ずさむたび、二番の歌い納めのフレーズ「貝の色も」が心にとまっていた、もの言わぬ貝にいつか語らせようと願い、ようやく描くことができたわが人生の「貝の色」。きっかけは、センターの書架に見つけた『浜辺の歌思い出集』という平成十年発行の郷土出版物。編集者は「秋田県岩城町」で、成田為三が道川海岸で曲想を練ったという言い伝えにあやかり、町が応募を呼びかけ、選ばれた作文集である。入賞作品を含む百五編を選んで載せた、熱い思いのこもった一冊と出会い、私版「浜辺の歌」自由詩が形を成した。

貝と言えば、心に浮かぶ名作がある。私の詩中に登場する「つめた貝」をはじめ、いくつかの美しい貝をモチーフに書かれた『海からの贈物』（アン・リンドバーグ 吉田健一訳）。こちらの「貝の色」は読むたびに知恵深く光り、静かな勇気を吹き込んでくれる貴重な一冊だ。

小畑勇二郎氏の言われる「本当に満足できる何かを求めて生きている」人を、書架の本は待っている。流行とは直接縁の無い顔で、貝殻の中に紛れた一つの生きた貝のように、艶やかな命の光を内に秘めて……。



本が書架に並ぶまで ～図書資料班の主な業務～

県立図書館は明治32年の開館から121年目を迎え、蔵書は約94万冊となりました。現在も毎年約2万冊の図書を新たに受け入れています。図書がどのような過程を経て利用者の手元に届くのか、カウンターでは見えない資料収集の仕事を、郷土資料と一般の新刊図書についてご紹介します。

①郷土資料の収集、整理、保存

県立図書館では、郷土を知り、研究する手がかりとするために、秋田県に関する資料や、秋田県ゆかりの人物に関する資料（郷土資料）を積極的に収集し、利用者の皆様に提供できるよう整理を行い、保存しています。



4階書庫にある郷土資料の書架。市町村広報やフリーペーパーなど、本以外の資料もあります。

【収集】著者や出版社等から寄贈いただいたり、地域の書店から購入したりしています。

【整理】データを登録し、バーコードやラベルの貼付等、必要な処置をして皆様に提供します。

【保存】必要に応じて中性紙のケースに入れるなど、劣化を防ぐように留意します。



装備作業の様子。付録が紛失しないよう手作業で貼り付けます。

検収が済むと、タイトルや著者名、出版社、価格、分類（ジャンル）等の情報をシステムに登録し、続いて図書の帯や付録を見返し（表紙の裏）に貼ったり、フィルムコーティングしたりといった「装備」と呼ばれる作業を行います。



作業を終えた新刊がよいよ閲覧室へ届けられます。

こうした作業を終えた後、カウンター担当へ引き渡され、内容を吟味した上でどのコーナーに置かれるかが決定されます。

②新刊図書の収集

【選書から発注まで】

県立図書館に必要な新刊図書の選定は、司書資格を持つ職員が中心となり、年間を通じて行っています。文芸書やビジネス書、絵本、外国語図書など各分野の出版社や書店のカatalogのチェックや、メディアで話題となった本の情報収集の他、利用者によるリクエスト等も取り入れつつ、県民に必要な情報を迅速に提供するための選書を心がけています。また、農業や医療等の専門分野の選書は、県農業試験場や秋田大学医学部といった県内の専門機関に御協力いただいています。

選定された資料は、図書館長の決裁を受けた上で発注・購入されることとなります。

【納品から装備まで】



職場体験に訪れた高校生が検収作業を体験

ないか1冊ずつ見ていきます。

図書が納品された後は、検収、登録、装備といった作業を経て書架に並べられます。

毎週約200～300冊の新刊書が届きます。検収作業では冊数と金額を確認し、落丁や汚れ等が

③蔵書点検



蔵書点検では限られた時間で大量の図書の確認作業を行います。

年に2回、5日間ずつ休館し、蔵書の点検や書庫の整理等を行っています。（今年度は12月2日（水）～6日（日））。閲覧室には常時17万～18万点の図書や雑誌、視聴覚資料がありますが、資料の在庫状況や、正しい書架に配置されているか等を確認するた

めの大切な作業です。職員総出で1点ずつバーコードのチェックを行い、併せて資料の保管や出し入れが速やかにできるよう閲覧室や書庫の整理も行います。

御紹介したように、県立図書館では多様なニーズに応じた資料の収集から提供を通じて、県民の皆様が常に快適に図書館を利用できるよう努めています。

Topics

～県立図書館の事業やイベントなどの紹介～

埋蔵文化財センターとの連携展示 「縄文石器を旅する」

7月4日（土）～8月4日（火）まで、埋蔵文化財センターとの連携展示「縄文石器を旅する」を開催しました。今回の展示では、埋蔵文化財センターが県内の縄文時代の遺跡から発掘した多くの石器が出品された他、石器の製作過程や用途等を説明したパネルや写真が提示されました。近年の石器石材の研究成果やそれぞれの石器の機能を推定させる使用痕の分析結果、さらに現在の石器製作技術の復元過程など、秋田県における縄文時代の石器研究の最前線を紹介する展示になりました。

また今回の展示では、来館者のスマートフォンやタブレットで、展示ガラスの下方、数か所に置かれたQRコードを読み取ると、音声解説を聴くことができました。



遺跡周辺の写真と遺跡から出土した石の展示



音声解説の案内

秋田県図書館大会

10月13日（火）、秋田県生涯学習センターを会場として、秋田県図書館大会を開催しました。

はじめに、『あきた文学資料館と「秋田の文学」』と題し、京極雅幸あきた文学資料館副館長が講演を行いました。文学資料を収集・整理するだけでなく、それらを工夫して展示することで様々な反応が返ってくること、情報センター的役割を果たすために日々活動していることなどが紹介されました。

情報交換では、新型コロナウイルスへの各館の対

応について、北秋田市鷹巣図書館、由利本荘市中央図書館、大仙市立大曲図書館、県立図書館が発表しました。さらに、「新型コロナウイルス感染症対策に関するアンケート」の結果から、県内の対策やそれにより生じた課題などが報告されました。



京極副館長による講演

貴重資料紹介・県立図書館探検隊

「県民読書の日」である11月1日（日）に、2つのイベントを開催しました。

午前中は、県立図書館が所蔵する貴重資料『亜墨新話（あぼくしんわ）』の紹介を行いました。

1841年、日本近海で遭難した阿波国の船乗りたちが日本に帰ってくるまでの道のりや出来事を、県立図書館の柏倉良明社会教育主事が解説しました。参加者は熱心に説明を聞き、講演終了後も質問をするなどしていました。

午後は、小学生とその保護者を対象とした「県立図書館探検隊」を行いました。

参加者は4階と1階の書庫を見学し「羽州久保田大絵図（うしゅうくぼたおおえず）」「本草図譜（ほんぞうずふ）」などの貴重資料を見たり、明治期に発行された新聞や雑誌が今でも読める状態で保管されている様子を確認したりしました。見学をとおして参加者は、図書館が様々な資料を収集・整理・保管し、利用できる状態を保つよう努めていることを知り、図書館に対する理解を深めていました。



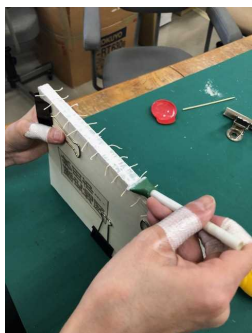
1階書庫では、雑誌が保管されている集密書架を見学しました。

Pick up

～各班からの話題～

図書資料班

資料を保存するために



修理の様子。場合によっては表紙を外して一からページを綴じ直すことも

県立図書館では、破損したり、汚れたりした資料については保存のため修理を行っています。

ページの破れ、水濡れ等、様々な状態の資料を可能な範囲で修理していますが、郷土資料など特に替えのきかないものについては、製本の構造や経年劣化等を考慮した上で慎重に作業しなければなり

ません。技術と経験を要する業務の一つです。

県立図書館の資料は県民皆様の財産です。大切に利用して下さるようお願いいたします。

情報班・サービス班

ミニ展示のご案内



巡り合えたら幸運?!
ミニ展示紹介

からは『サキホコレ』に関する各種ポスターなどを提供してもらいました。『サキホコレ』は令和4年に本格デビュー予定ですが、周辺情報を仕入れて待つのも一つの楽しみ方ではないでしょうか。

ミニ展示は、県民の皆様に知っていただきたい事柄をテーマにして県の関係部署と連携を取りながら、時期・場所を不定期に展開しています。11月5日から12月22日まで、秋田県の新ブランド米『サキホコレ』誕生を祝い、お米や農業に関連した本を集めて展示しました。秋田県庁の秋田米ブランド推進室

企画・広報班

学校向けセットのリリースについて

県立図書館では、高等学校・特別支援学校向けに、専用のセット資料を作成しています。セット資料は毎年4月と11月に新しいものを追加・更新していますが、今年の11月は人気のあるショートストーリー、ライトノベルや社会的に関心の高いSDGs、自伝など38コンテナを追加し、全部で73テーマ、415コンテナとなりました。1つのコンテナにはテーマ毎に40冊ほどの本をまとめていて、今年の4月から既に300コンテナ、1万冊以上の本が図書室や授業などで利用されています。



セット資料の一例

Event

～イベント・催し物のお知らせ～

■近代美術館との連携展示 特別展示「山岳の美・水辺の美」

自然界が見せてくれる四季折々の姿は、人々を魅了してやみません。作家たちもまたそれに心をひかれ、思いを作品に表してきました。今回の展示では、近代美術館が所有する所蔵品中から、特に「山」や「水辺」を描いた作品を取り上げ紹介します。

【期間】 12月12日(土)から1月26日(火)まで

※毎週水曜日、12月28日(月)から1月3日(日)までは休館日

【時間】 午前9時30分から午後5時まで

【会場】 特別展示室

【参加費】 無料

【主な展示作品】 佐々木良三「限定海域のものたち」、横山津恵「双生」、寺崎廣業「絶峰催春」、福田豊四郎「冬山小景」

ほか